

当院で育てたい医師、4つの柱と16の指標

<診療における問題解決力>

患者様の問題、それも生物学的な問題から心理・社会・経済的な問題を全人的にとらえ、ニーズに即した、スタンダードな医療が提供できること。

1. 急性・慢性の問題(疾患・病態・患者様が困っていること)の診断・治療・管理が、入院・外来双方の診療において包括的に行える。
 - －緊急時の重症度判断と初期対応ができる。
 - －病歴・身体所見を重視し、無駄のない検査を加えて、論理的に問題の診断ができ、治療・管理計画が立案できる
 - －必要な手技が安全に行える。
 - －有効な診療録の記載ができる。
 - －EBMやガイドラインを適切に用いて診療できる。
 - －保険診療を遵守し、社会資源を効果的に活用できる。
2. 患者教育、予防・健康増進活動が実践できる。
3. 患者にとって最善の利益を考えて行動できる。
 - －利益と危険度のバランスを考えて診断・治療を組み立てられる
 - －心理社会的・倫理的・法的・経済的な配慮の上で問題に対応できる。
 - －コントロールを容れて問題に対応できる。
4. 複雑な問題、同時多発の問題にも、優先順位を考えて柔軟に対応できる。

<医療安全と品質管理に取り組む姿勢>

自分が自分の足りないところを認識し改善するために継続して生涯学習し、それを同僚や他職種の人たちと共有することができること。

5. 自己の限界を把握し、適切なタイミングで必要な助けを求められる。
6. 自己をふりかえり、継続学習し、院内外の発表、研究活動を行える。
7. 医師・関連職種の学びを促し、経験・職種を超えて他から学ぶ姿勢を示せる。
8. 診療体制・医療安全のルールを守り、改善を提案し、改善策を構築できる。

<対人関係の構築力・連携力>

他の人とうまくやる力、すなわちチームワークやリーダーシップを組織の内外で発揮できること。

9. 患者目線、患者支援の視点で、良好な医師－患者関係を築ける。
(傾聴、共感と思いやり、尊敬、プライバシーの尊重と守秘、信頼構築と維持、アイコンタクトを用いた有効で明確な意思伝達)
10. 診療チーム内および対外的に良好な人間関係を構築し、連携できる。
(尊敬、共感と思いやり、良いアクセス、有効で明確な意思伝達、支持的態度、円滑な病診連携と搬送)
11. 診療チームのリーダーとして機能できる。

<人間力>

人として正しくあること。

12. 社会人としての役割を果たせる。
 - －あいさつ、笑顔での対応、適切なみだしなみと言葉遣い、整理・整頓、公私の区別が実践できる。
 - －自己管理(時間管理・感情の制御・心身両面の健康管理)ができる。
13. 正直、公正、誠実、謙虚、利他、言行一致で責任を果たすことができる。
14. いかなる立場でもジェネラリストとして行動できる。
15. 職業人としての自分の将来像を構築できる。
16. 社会への啓発、医療体制改革が提案・実践できる。